



一般社団法人 日本土壤肥料学会 2024 年度（第 47 回）通常総会

[2024 年 5 月 18 日（土）13 時 00 分～14 時 20 分 東京大学山上会館大会議室]

次 第

開会

会長挨拶

議長選出

議 事

第 1 号議案 2023 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告および監査報告

第 2 号議案 2024 年度事業計画案および収支予算案

第 3 号議案 定款・細則の改定

第 4 号議案 総会議事録署名人の選任

その他 2024 年度年次大会（福岡）の開催について

閉 会

一般社団法人 日本土壤肥料学会
2023 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告

I. 2023（令和5）年度事業報告（令和5年3月1日～令和6年2月29日）

2023 年度は新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和が進み、年次大会、支部大会、講演会はすべて対面またはオンライン併用のハイブリッド形式で開催され、若手会員の海外渡航等支援を活用した国際会議での発表も活発に行われた。年度末の会員数は前年度に比べやや増えた。会誌、欧文誌では、講座や特集セクションが拡充された一方、原著論文投稿数の減少が続いた。また、これまで培われ取組んできた事業に加え、2027 年の学会創立 100 周年が活性化を進める契機となるよう、併せて将来を担う若手会員の裾野を広げる取組みを検討し、その一助とするため寄付金募集を開始した。

1. 定期刊行物および資料の刊行

1) 定期刊行物

- (1) 日本土壤肥料学雑誌（会誌）は、第 94 巻第 2 号～第 6 号および第 95 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数は次の通りである。報文 13 編、ノート 6 編、技術レポート 5 編、講座 28 編、資料・国内外情報等 20 編、ニュース、書評、欧文誌掲載論文要旨、合計 470 頁、ほかに学会賞等業績要旨、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより（土壤教育活動だよりを含む）等を掲載した。
- (2) Soil Science and Plant Nutrition（欧文誌）の刊行は Vol.69, No.2～No.6（No.5、6 合併号）および Vol.70, No.1 の計 5 冊となり、掲載した論文数は、通常論文 29 編、特集セクション 5 編、会誌掲載論文要旨、合計 360 頁である。
- (3) 日本土壤肥料学会講演要旨集（第 69 集、257 頁）を 2023 年度愛媛大会（9/12～14）に際し、電子媒体として刊行した。

2) その他の刊行物

2021 年に Springer 社から刊行された"The Soils of Japan"の日本語版を、朝倉書店から「日本の土壤事典」（日本土壤肥料学会・日本ペドロロジー学会（監修）／波多野隆介・真常仁志・高田裕介（編））として 9 月に刊行した。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

1) 「土と肥料」の講演会

2023 年 5 月 20 日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館大会議室において「土と肥料」の講演会を開催し、54 名の参加があった。また、会員限定対象のオンライン参加の試行に 30 名が参加した。テーマを「肥料高騰における施肥管理の効率化—土壤肥料からのアプローチ」とし、講演者と演題は、鮎澤純子氏（長野県農政部農業技術課 専門技術員）「イネ科緑肥作物の肥効活用によるレタスの減肥技術の開発」、久保寺秀夫氏（農研機構 農業環境研究部門 土壤環境管理研究領域長）「水田土壤のカリ収支を踏まえた水稻のカリ適正施用指針」であった。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施した。

2) 学会創立 100 周年事業公開シンポジウム

国際基礎科学年公開シンポジウム「食・土・肥料—持続可能な発展のための基礎科学として」を、本学会と日本学術会議農学委員会土壤科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合

同 IUSS 分科会との共催、および IUSS 分科会構成学会である 17 学会の後援の下、2023 年 7 月 29 日（土）に東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂と Zoom ウェビナー配信のハイブリッド形式で開催した。事前の登録者数は会場参加が 200 名以上、ウェブ参加がおよそ 500 名で、参加申込み者は 20 歳代が 15%、30 歳代が 14%、40 歳代が 20%、および 50 歳代が 25%と、現役世代を中心に幅広い年齢層から申し込みがあった。また、Zoom ウェビナー参加者数は 204 名（最大接続数）でのべ参加者数は 468 名であった。開催後のアンケートでは、本シンポジウムを「大変有意義だった」との回答が 78%と大好評であった他、ハイブリッドでの開催形式に感謝を述べた意見をいただいた。

なお、本シンポジウムは、学会創立 100 周年事業の一環として開催した。

3) 2023 年度年次大会

- (1) 2023 年度愛媛大会は、9 月 12 日（火）～14 日（木）に愛媛大学城北キャンパスにおいて開催した。参加者数は事前登録 719 名（正会員 456 名、学生会員 187 名、非会員 76 名）および当日登録 76 名（正会員 30 名、学生会員 10 名、非会員 36 名）であった。
- (2) 一般講演の演題登録数は 449 題（口頭発表 288 題、ポスター発表 161 題）で、発表取り下げが 1 題（ポスター発表 1 題）あった。口頭発表は対面形式で行い、ポスター発表は 9 月 7 日～18 日の間 LINC Biz を利用したオンライン形式で行った。一般講演演題から若手口頭発表優秀賞 15 題、若手ポスター発表優秀賞 10 題を選考し、表彰した。
- (3) シンポジウムは公開を含めて 5 つのテーマのシンポジウムを対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した（9/14）。シンポジウムのテーマは、従来と同じく会員から公募し、これを基に部門長会議で検討して設定した。シンポジウムテーマと関連部門は以下の通り。
 - ・ 2、3、6 部門：水田土壌の鉄の酸化還元研究の現在
 - ・ 3、6、7、8 部門：有機物を活用したネイチャーポジティブな柑橘栽培を目指して（公開シンポジウム）
 - ・ 2、6、7、8 部門：水田に蓄積する土壌有機物—その特徴と動態
 - ・ 1、6、7、8 部門：有機稲作栽培の拡大に向けて土壌肥料学からニューアプローチ
 - ・ 1、6、8、9 部門：人、動植物、環境の健康を基本とする食料システムの生産性向上と環境負荷低減を考える
- (4) 高校生による研究発表会は、約 20 名の高校生による 12 題（10 校）の対面形式での発表があり、最優秀ポスター賞 1 題および優秀ポスター賞 2 題を表彰した（9/13）。なお、発表会参加の 8 校へ交通費補助を行った。また、LINC Biz を利用したオンラインポスター発表 18 題（10 校）が行われ（9/7～18）、最優秀オンラインポスター賞 1 題、優秀オンラインポスター賞 2 題を表彰した
- (5) 学会賞等授賞式では、第 68 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 28 回同技術賞 2 名、第 41 回同奨励賞 5 名、第 12 回同技術奨励賞 1 名、第 12 回同貢献賞 1 名、日本土壌肥料学雑誌論文賞 1 件、SSPN Award 2 件に各賞を授与した。各賞の受賞者および受賞業績は以下の通り。

第 68 回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・ 秋山博子：農耕地における温室効果ガス発生削減に関する研究
- ・ 唐澤敏彦：緑肥の総合的土壌改善機能の評価とその利用に関する研究
- ・ 山口紀子：土壌中元素の分子スケールスペシエーション

第 28 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・ 大森誉紀：西南暖地における環境調和型施肥・土壌管理技術の開発と普及
- ・ 中辻敏朗：農耕地の生産環境評価のための手法開発とその活用

第 41 回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・安藤 薫：最新技術を取り入れた土壌養分可給性の評価に基づく持続的肥培管理法の提案
- ・黄 勝：イネのミネラル輸送体の機能解明
- ・時澤睦朋：高精度転写制御配列予測による STOP1 が制御するアルミニウム耐性遺伝子発現に関する研究
- ・増田曜子：水田土壌における窒素および炭素循環を駆動する新規微生物群の発見と応用
- ・森下瑞貴：土壌の空間評価・生成分類に関するデータ集約型研究

第 12 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・八木哲生：北海道における飼料用トウモロコシの省資源・環境保全的施肥法に関する研究

第 12 回日本土壌肥料学会貢献賞受賞者と受賞業績

- ・安西徹郎：部門・部会制度の創設、技術賞・技術奨励賞の新設等に関与し学会の活性化と発展に貢献

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者と受賞論文題目

- ・糟谷真宏、安藤 薫、尾賀俊哉、大橋祥範、久野智香子：愛知県での 95 年間の長期連用試験における水稻の収量と土壌化学性の変化および土壌カリウム供給機構について 日本土壌肥料学雑誌 第 93 巻第 1 号 1～11 (2022)

SSPN Award 受賞者と受賞論文題目

- ・Hinako Sugiura, Soh Sugihara, Takehiro Kamiya, Maria Daniela Artigas Ramirez, Minori Miyatake, Toru Fujiwara, Ohyama Takuji, Takashi Motobayashi, Tadashi Yokoyama, Sonoko Dorothea Bellingrath-Kimura, Naoko Ohkama-Ohtsu : Sulfur application enhances secretion of organic acids by soybean roots and solubilization of phosphorus in rhizosphere *Soil Sci. Plant Nutr.*, 67(4), 400-407 (2021)
- ・Atsushi Hayakawa, Yasunari Shiraiwa, Naoki Murakami, Yuki Murayama, Tomoko Ishida, Yuichi Ishikawa, Tadashi Takahashi : Influence of surface geology on phosphorus export in coastal forested headwater catchments in Akita, Japan *Soil Sci. Plant Nutr.*, 67(3), 332-346 (2021)

(6) 学会賞等授賞式に引き続き、第 68 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 28 回同技術賞 2 名、第 41 回同奨励賞 5 名、第 12 回同技術奨励賞 1 名の受賞記念講演および IUSS 会長のビデオ特別講演を行った。また、論文賞 1 件および SSPN Award 2 件の受賞者については、受賞記念ポスターを大会会場に展示した。

(7) 受賞記念講演および特別講演に引き続き、懇親会を開催し、352 名の参加があった。

(8) 大会期間中に会誌編集委員会、欧文誌編集委員会、支部長連絡会、土壌教育委員会を開催した。

(9) 大会協賛企業、愛媛大学農学部の後援、学会賛助会員への謝意および大会参加証明撮影用ボードを会場に設置するとともに、賛助会員所属者の大会参加無料招待を行った。

(10) エクスカーション (9/15) では、愛媛県みかん研究所、ふじブドウ園、国営農場見学などを行い、20 名が参加した。

(11) 会員有志による「土壌肥料若手の会 2023 in 愛媛」(9/15～17) が開催され、愛媛県のみかん研究所、大洲市国立青少年交流の家、内子街並み見学 (木蠟資料館、内子座 等)、愛媛大学農学部附属農場、松山市野外活動センター、愛媛県農林水産研究所、みきゃんパークを訪問するとともに、開催期間を通じて参加者同士の親睦を深める催しや自己紹介を兼ねた研究紹介発表会を行った。全国 10 大学、農研機構、公設試験機関等から 28 名の参加があり、その詳細は、会誌 94 巻 6 号に掲載した。

4) 支部大会

- ・北海道支部：2023年度秋季支部大会を対面開催し（12/8、かでの2・7、札幌市）、98名が参加した。研究発表会では29題のポスター発表が行われ、優秀発表賞を2課題に授与した。同日午後にはシンポジウム「土壌の物理性と炭素動態」を開催し、参加者は109名であった。
- ・東北支部：2023年度東北支部大会（7/19、アイーナいわて県民情報交流センター、盛岡市）、および支部大会公開シンポジウム（7/20、同会場）を対面開催した。支部大会の一般講演は口頭発表8題、ポスター発表11題で49名が参加した。公開シンポジウムは「下水道資源の肥料への応用-地域内の肥料資源のリサイクルシステムの構築に向けて」をテーマに3講演が行われ、参加者は80名であった。
- ・関東支部：2023年度支部大会を対面開催し（11/25、東京農業大学、東京都）、ポスター発表による一般講演36題が行われ、参加者は114名であった。シンポジウム「下水汚泥資源の肥料利用」をテーマに2講演が行われた。また、8機関による情報共有セッションが行われた。
- ・中部支部：2023年度支部大会（第103回例会）を対面開催し（11/13～14、ホテルグリーンパーク津、津市）、特別講演2題、一般講演20題（口頭発表6題、ポスター発表14題）が行われ、参加者は60名であった。
- ・関西支部：2023年度支部大会（12/7、神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室、神戸市）を対面開催した。一般講演の口頭発表30題が行われ、優秀発表賞4題を表彰し、68名の参加があった。また、馬建鋒氏の紫綬褒章受賞講演「作物のミネラル輸送機構」を行い、参加者は68名であった。
- ・九州支部：2023年度支部例会（12/14～15、九州大学西新プラザ、福岡市）を対面開催し、口頭発表による一般講演24題、支部学術賞受賞講演2題が行われ、参加者は60名であった。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

2023年10月27日に選考委員会を開催し、2024年度日本農学賞の推薦候補者、第69回日本土壌肥料学会賞、第29回同技術賞、第42回同奨励賞、第13回同技術奨励賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞およびSSPN Awardの受賞者を審査し選定した。選考結果は理事会承認を経て確定した。各賞の受賞者および受賞業績は以下の通り。

第69回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・江口定夫：人-土壌-環境の相互作用下の窒素等物質循環の定量化とモデル化
- ・高野順平：栄養輸送体による栄養感知と細胞内局在制御の解明
- ・矢内純太：土壌肥沃度の時空間変動の解析と持続的農業への応用

第29回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・篠原 信：有機質肥料活用型養液栽培および土壌創製技術の開発
- ・西村誠一：多様な農地管理における温室効果ガスの発生実態の解明と排出削減技術に関する研究

第42回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・アシルオグルムハンメット ラシット：水田土壌における原生生物の生態と機能に関する研究
- ・菅波真央：イネの光合成改良に向けたRubiscoとRubisco活性化酵素に関する研究
- ・反田直之：栄養輸送や応答の数理モデル研究
- ・永野博彦：多様な研究手法を用いた陸域生態系における温室効果ガス動態の解明

- ・吉成 晃：植物のホウ酸輸送体の細胞内輸送機構の研究

第13回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・中村嘉孝：有機質資材の長期的影響をふまえた砂質畑における施用基準の策定

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者と受賞論文題目

- ・安藤 薫、糟谷真宏、中尾 淳、中島聡美、村野宏達、中村嘉孝、瀧 勝俊、矢内純太：愛知県露地野菜畑土壌における非交換態カリウム含量の規定要因および作物カリウム吸収への寄与 日本土壌肥料学雑誌 第94巻第3号 163～169 (2023)
- ・平野七恵、江口定夫、織田健次郎、松本成夫：物流データに基づく日本の食飼料供給システム及び畜産業セクターにおける過去40年間の窒素フローと窒素利用効率の解析 日本土壌肥料学雑誌 第94巻第1号 11～26 (2023)

SSPN Award 受賞者と受賞論文題目

- ・Ayane Kan, Hayato Maruyama, Nao Aoyama, Jun Wasaki, Yoshiko Tateishi, Toshihiro Watanabe, Takuro Shinano : Relationship between soil phosphorus dynamics and low-phosphorus responses at specific root locations of white lupine *Soil Sci. Plant Nutr.*, 68(5-6), 526-535 (2022)

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

1) 日本農学会関係

- ・2023年度日本農学会シンポジウム「激動する社会と農学」の開催に協力し、本学会より林健太郎会員（人間文化研究機構 総合地球環境学研究所）が「持続可能な環境と食料安全保障を両立させる窒素利用の在り方」を講演した（10/7）。
- ・2024年度日本農学会シンポジウムのテーマおよび話題提供の募集に対応した。
- ・2024・2025年度日本農学会副会長に本学会推薦の小崎隆元会長（愛知大学国際コミュニケーション学部）が就任することとなった。

2) 日本学術会議関係

- ・日本学術会議が主催する講演会、研究会の開催案内等を学会ホームページ（HP）、フェイスブック（FB）に掲載して会員へ情報提供した。
- ・「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022）」および2027年の日本土壌肥料学会の創立100周年事業の一環として日本学術会議農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会との共同主催「食・土・肥料—SDGs達成のための基礎科学として」を開催した。

3) 他学会等関係

- ・第35回環境工学連合講演会「グリーンリカバリーと環境工学」（5/30、東京都、オンライン併用）を共催し、本学会の草佳那子会員（農研機構 中日本農業研究センター）が「持続的な食料生産システム構築に向けた土壌肥料分野の取り組み」を講演した。
- ・第33回環境工学総合シンポジウム（7/25、松江市）を協賛した。
- ・第60回アイソトープ・放射線研究発表会（7/5～7、東京都）を協賛した。
- ・第10回酸性雨国際会議（4/17～21、新潟市）を共催した。
- ・日本粘土学会第66回粘土科学討論会（9/12～13、仙台市）を協賛した。
- ・地盤技術フォーラム2023（9/6～7、東京都）を協賛した。
- ・土壌物理学大会第65回シンポジウム「農業が直面する環境汚染」（10/21、川崎市）を協賛した。
- ・日本腐植物質学会第39回講演会（11/11、東京都）を協賛した。

- ・第二回プラズマ種子科学研究会（2024.1/6～7、名古屋市）を後援した。
- ・農研機構「土壌の健康」に関するオンライン国際ワークショップ（2024.1/30～31）を後援した。

4) IUSS、ESAFS 等関係

- ・ESAFSサポートオフィスを通じ、第16回ESAFS（2024.3/26～29、タイグエン市）の開催などの関連情報を発信した。
- ・IUSS第2部門が開催する第9回土壌鉱物・有機物・微生物の相互作用に関する国際シンポジウム（ISMOM2024：2024.10/15～18、つくば市）の共催に際し、組織委員会（代表：和穎朗太会員）からの申請を受けて経費支援を行った。
- ・日本ペドロロジー学会と共催する第7回国際土壌分類会議（7th ISCC：2024.6/3～9、北海道）の事前調査経費の一部を支援した。

5) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換している。

- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 9、国外 11
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 14

5. 本学会の委員会等活動

1) 企画委員会

- ・「企画委員会 2024 年度総会後に開催する「土と肥料」の講演会を企画した。

2) 財政基盤整備委員会

- ・拡大財政基盤整備委員会を開催し、財政基盤について検討した（10/18 オンライン）。委員会では、①財政基盤の現状とあり方、②学生会員の会費値下げ、③支出低減について議論し、それに基づいて、①会員数の減少幅を小さくするためにも学会の活性化を図る方策を講じること、②将来に向けて若手の裾野を広げて活性化につなげる取組みとしてまず学生会員の会費を 2,000 円に値下げすることを理事会へ提案した。

3) 土壌教育委員会

- ・土壌教育委員会を開催し（6/24 オンライン、9/14 対面、11/20～30 メール審議）、昨年度の事業報告および 2023 年度の事業と予算の確認、愛媛大会における「高校生による研究発表会」の準備状況の確認、動画作成をはじめとする土壌教育教材の開発、土壌教育の国際ガイドライン、次期学習指導要領改訂に向けた要望書の作成、を検討した。また、随時土壌教育委員会 HP の更新等を行った。
- ・愛媛大会において「高校生による研究発表会」を大会 1 日目（9/12）に開催（10 校 12 題）した。また LINC Biz を利用したオンラインポスター発表 18 題（10 校）を行った。
- ・委員による教育活動：体験教室「泥染めに挑戦」（4/22、寄居町）、「土の足ざわりを楽しもう」（5/3～4、寄居町）、「泥だんごづくり」（5/20、寄居町）、「土の特徴を調べよう」（7/16、寄居町）、「みみずのうんちストラップづくり」（7/23、寄居町）、「土の中の生きものを観察しよう」（9/23、寄居町）、「土の断面に洪水の痕跡を見る」（10/15、寄居町）、「クマムシを探して観察しよう」（11/18、寄居町）、「土でアート作品づくり」（12/2、寄居町）、出前授業（11/7）、土壌モノリス展示（5/3～8、11/14～12/28、寄居町）、「土ってすごいネ」（8/26、真岡市）、講習会講師「ナラ枯れから考える環境教育」（5/20、狭山市）、JICA「持続的農業生産のための土壌診断と土壌改良技術」（6/6～8、29、7/6～7、帯広市）、「千曲川ワインアカデミー」（6/22、東御市）、「河川植物と土壌」（7/27、狭山市）、「米作り体験」（9/27、宇都宮市）を行い、それらの概要は「土壌教育活動だより」として会誌に掲載した。

4) 広報対応

- ・会誌の会告およびニュース、学会 HP、FB、メーリングリスト (ML) によって、学会の活動概要、各種募集情報、シンポジウム等イベント情報、年次大会・支部会開催情報等を発信した。
- ・学会公式 SNS に X (旧 Twitter) を加え、情報発信を強化した。
- ・学会 HP の構成を検討し、トップページのバナーを拡充した。
- ・エコプロ 2023 (12/6~8、東京都) にブースを出展した。
- ・学会創立 100 周年ロゴマークを選定し、学会 HP、会誌・欧文誌の表紙、学会封筒に掲載し広報に利用した。

5) 国際土壌の 10 年関連活動

- ・IUSS、ESAFS を中心に委員等の推薦、国際会議等に係る情報収集と発信を継続した。
- ・2024 年の IUSS100 周年まであと 1 年の案内と動画を学会 HP と FB に掲載した。
- ・IUSS100 周年に向けて、愛媛大会期間中に学術会議 IUSS 分科会委員、IUSS 役員、日本開催国際学会開催主宰者、渉外担当理事 (国際) の情報および意見交換会を開催した (9/12)。

6) 男女共同参画学協会連絡会への対応

- ・女子中高生夏の学校 2023 (8/5~7、嵐山町) に参加し、2 日目に「生命と環境を支える「土壌」とは？」のタイトルで土壌モノリスとポスターの展示を行った。

6. 会務報告

1) 会員の動向

(1) 2023 年 2 月末日における会員数は次のとおりである。

正会員 1,593 名 (うち会費免除正会員 71 名、外国正会員 16 名)、賛助会員 37 社、名誉会員 10 名、学生会員 394 名 (うち留学生 78 名)、国内団体購読会員 79 団体
合計 2,113 名・団体

(2) 2023 年 2 月末日までの入退会者数 (種別変更を含む) は次のとおりである。

入会：正会員 108 名 (うち会費免除会員 6 名、外国正会員 4 名)、学生会員 160 名 (うち留学生 22 名)、賛助会員 1 社、団体会員 1 団体
合計 270 名・団体

退会：正会員 88 名 (うち会費免除会員 4 名、外国正会員 2 名)、学生会員 84 名 (うち留学生 11 名)、国内団体購読会員 4 団体
合計 176 名・団体

2) 会議

(1) 総会：2023 年 5 月 20 日、東京大学山上会館において第 46 回通常総会が開催された。本会議においては、①2022 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告および監査報告、②2023 年度事業計画及び収支予算案、③役員の新任・退任、④総会議事録署名人の選任について審議され、各議案とも、原案通り承認された。その議事録を会誌 94 巻第 4 号に掲載した。

(2) 理事会：学会事務所、東京大学山上会館またはオンラインにおいて計 7 回 (3/25、5/20、6/24、8/5、10/28、12/16、2024.1/20) 開催され、所要の事項・会務等を報告・審議した。その議事録は会誌ニュース欄に掲載した。主な事項として、①会誌および欧文誌の投稿・編集・刊行状況、②中間および期末監査報告、③総会議案、④学会創立 100 周年事業および若手支援の寄付募集、⑤年次大会対応 (2023 年度愛媛大会における理事会の役割分担、大会収支決算等、2024 年度福岡大会準備の支援、2025 年度開催地等の決定)、⑥学会創立 100

- 周年事業対応（ロゴマーク選定、テーマ別シンポジウム応募企画対応、支部シンポジウム動画の限定公開、会誌への名誉会員寄稿企画など）、⑦国際対応（IUSS 会議代表者派遣等、日本開催国際会議の支援など）、⑧他学会・他機関からの共催・協賛・後援要請案件、⑨入退会・休会・会費免除、⑩若手会員の海外渡航等支援、⑪会誌、欧文誌編集委員、土壤教育委員、部門長の交代、⑫学会賞等の英名、⑬学会賞等選考結果、⑭学生会員の会費改定、⑮学会公式 SNS (X) の運用、⑯学習指導要領改訂に向けた土壤教育に関する要望書、⑰インボイス制度および改正電子帳簿保存法対応などの審議を行った。
- (3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議（3/20～23 メール会議）では、愛媛大会シンポジウム公募 5 課題の実施を承認し、若手対象の発表表彰の審査に係る審議を行った。また、第 35 回環境工学連合講演会のプログラムと草佳那子会員による講演課題が報告された。②第 2 回部門長会議（6/16 オンライン）では、愛媛大会プログラム編成を行い、若手対象の発表表彰の審査方法を確定した。③第 3 回部門長会議（11/6 オンライン）では 2024 年度福岡大会におけるシンポジウム公募案、若手発表表彰、第 9 部門における重複発表、土壤モノリス展示への対応を検討し承認した。また、第 36 回環境工学連合講演会講演者の推薦、次回進歩総説の発行計画、学会創立 100 周年事業における部門発シンポジウム、2024 年度予算要求等について審議した。
- (4) 2023 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において会長を議長として開催し、2024（令和 6）年度日本農学賞候補者、第 69 回日本土壤肥料学会賞、第 29 回同技術賞、第 42 回同奨励賞、第 13 回同技術奨励賞の受賞者を選考した（10/27）。その結果は第 4 回理事会（10/28）での承認を経て、会誌 94 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞論文と SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第 4 回理事会での承認を経て、会誌 94 巻第 5 号に掲載した。なお、学会賞等の応募書類の受付方法を、紙資料の郵送からオンライン提出に変更した。
- (5) 会誌関係：常任編集委員会（4/11 オンライン、3/15～22、4/29～6/16、7/27～8/4、9/22～29、12/1～8、2024.1/9～31 メール会議）、地域編集委員会（3/17～23、5/29～6/6、7/26～8/2、9/26～10/3、12/1～7、2024.1/26～2/1 メール会議）、拡大編集委員会（9/12 対面）で、原稿入稿状況の確認や遅れへの対応、学会創立 100 周年事業や高校生発表等の新たな企画への対応、委員会開催日程が協議された。報文・ノートの投稿数が少ないことから、投稿促進の工夫および総説・解説等の拡充を図った。
- (6) 欧文誌関係：第 2 回編集委員会（9/12、愛媛大学）および常任編集委員会（10/19、2024.1/11、3/14 オンライン）で論文の投稿・審査・出版状況および特集セクションの進捗状況、Format-free submission の導入可否などについて審議した。
- (7) 支部における会議：
- 北海道支部：支部評議員会（6/14、北海道大学農学部、札幌市および 11/24～30 メール会議）および支部総会（12/8、かでの 2・7、札幌市）を開催し、2022 年度会計監査報告、2023 年度事業報告、会計中間報告、2024 年度事業計画案、予算案、支部役員・評議員案、次期土壤教育委員会委員推薦案を承認した。また、野外巡検は事情により中止となった。
- 東北支部：支部役員会および支部総会（7/19、アイーナいわて県民情報交流センター、盛岡市）を開催し、2022 年度事業および会計監査報告、2023 年度支部役員、2023 年度事業計画および予算、2024 年度事業計画および予算案について承認した。2024・2025 年度の支部長および事務局担当は継続審議となり、臨時役員会（3/18～21 メール会議）および臨時支部総会（3/22～25 メール会議）において承認された。
- 関東支部：支部幹事会（11/16、17、20、21 オンライン）で 2024 年度以降の支部運営担当機

関および支部大会開催巡等を審議した。11月25日に支部幹事会・総会を東京農業大学（東京都）において開催し、2022年度事業報告、決算報告、会計監査報告、2023年度事業計画および予算、2024年度支部長・監事、2024年度事業計画および予算について承認した。

中部支部：支部評議員会（6/27 オンライン）、支部総会および支部評議員会（11/13、ホテルグリーンパーク津、津市）を開催し、2022年度事業報告、決算報告、会計監査報告、2023年度事業計画、予算案、2023・2024年度支部役員、評議員について承認した。また、土壤教育活動事業として土壤観察会（7/23）および岡崎北高校「理数探究基礎」環境科学講座（8/25）を愛知県豊田市自然観察の森において開催した。

関西支部：支部および関西土壤肥料協議会の合同役員会（12/8、神戸大学瀧川記念学術交流会館、神戸市）において2023年度事業計画案、収支予算案、2024年度事業計画、収支予算案を承認した。

九州支部：支部常議員会・総会を支部大会（12/14～15、九州大学西新プラザ、福岡市）に際して開催し2022年度事業報告、会計決算報告、2023年度事業計画案（補正）、予算案（補正）、2024年度事業計画案、年度予算案を承認した。

（8）支部長連絡会：支部・本部間、支部間の連携を深めるために2023年度愛媛大会3日目に対面開催した（9/14）。各支部の活動報告と計画および課題となる事項、支部における会計処理に関する留意事項、学会設立100周年事業における支部連携シンポジウムなどについて情報共有および意見交換を行った。

3) その他

本学会の目的達成のため、以下の取組を行った。

- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費等支援者の選考を行い、前期2名、後期7名に渡航費の一部支援を行った。
- ・外部の顕彰へ候補者推薦を行い、増田曜子会員（東京大学大学院農学生命科学研究科）が2023年度（第22回）日本農学進歩賞を受賞した。また、波多野隆介元会長（北海道大学名誉教授）の2024（令和6）年度日本農学賞・読売農学賞受賞が決まった。
- ・学会創立100周年事業推進、若手会員支援の一助とするため、6月より寄付募集を開始した。2024年2月末までに2,389,000円（93件）の寄付があった。
- ・会員確保の一環として、賛助会員へ提供するサービスの拡充を図るため、愛媛大会への参加無料招待を行い、希望のあった14社（18名）を招待した。また、大会会場で賛助会員への謝意を掲示した。
- ・2023年10月1日からのインボイス制度に対応するための準備を進め、支部へのオンライン説明会（3/3）を開催した。
- ・2024年1月1日からの改正電子帳簿保存法の完全義務化に対応するため、規程を整備するとともに、2024年度年次大会運営委員会および支部の会計担当を対象にオンライン説明会を開催した（2024.1/19、2/22）。
- ・2025年度年次大会は、大竹憲邦氏（新潟大学）を大会運営委員長とし、新潟市において開催することを理事会において承認した。

II. 2023（令和5）年度事業報告の附属明細書

事業報告の附属明細書として記載すべき事項はない。

Ⅲ. 2023（令和5年度）収支決算報告書

一般正味財産増減の部

1. 経常収益

予算額より 351 万円増の 4,949 万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな科目

- ③受取入金（予算額より 30 万円増）75 万円
- ④受取会費／正会員受取会費（同 87 万円増）1,837 万円
- 同／学生会員受取会費（同 50 万円増）125 万円
- ⑤事業収益／会誌刊行等／会誌投稿料・別刷り代など（同 51 万円増）251 万円
- 同／会誌刊行等／欧文誌委託販売（同 113 万円増）763 万円
- 同／会誌刊行等／出版物印税（同 62 万円増）64 万円
- ⑩雑収入／雑収益（同 75 万円増）80 万円

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ⑤事業収益／会誌刊行等／会誌委託販売（予算額より 22 万円減）73 万円
- 同／大会収入／懇親会費（同 50 万円減）230 万円
- 同／大会収入／雑収入（同 67 万円減）114 万円

2. 経常費用

予算額より 576 万円減の 4,672 万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな支出科目

- ①事業費／年次大会／会場費（予算額より 25 万円増）42 万円
- 同／年次大会／運営費（同 25 万円増）55 万円
- 同／会誌刊行費／印刷製本費（予算額より 90 万円増）690 万円
- 同／支部大会開催費（予算額より 93 万円増）293 万円
- ②管理費／通信運搬費（同 19 万円増）104 万円
- 同／業務委託費（同 31 万円増）391 万円

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ①事業費／年次大会／年次大会人件費（予算額より 62 万円減）78 万円
- 同／年次大会／年次大会管理費（同 129 万円減）294 万円
- 同／年次大会／大会関係印刷費（18 万円減）94 万円
- 同／年次大会／懇親会費（122 万円減）133 万円
- 同／年次大会開催支援費（同 23 万円減）17 万円
- 同／会誌刊行費／通信運搬費（同 61 万円減）119 万円
- 同／会誌刊行費／編集費（同 74 万円減）283 万円
- 同／欧文誌刊行費／印刷製本費（同 22 万円減）168 万円

- 同／欧文誌刊行費／編集費（同 36 万円減） 54 万円
- 同／各種委員会等運営費／土壌教育委員会（同 42 万円減） 23 万円
- 同／学術交流費（同 28 万円減） 47 万円
- 同／国際交流費（同 72 万円減） 25 万円
- 同／事業関係業務委託費（同 47 万円減） 0 円
- 同／女性・若手支援費（同 50 万円減） 70 万円
- ②管理費／旅費交通費（同 16 万円減） 224 万円
- 同／印刷製本費（同 17 万円減） 23 万円

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 2 類相当から 5 類に引き下げられたため、前年度に比べて計画した各種事業がより多く実施され、計画に基づいた予算執行が行われた。一方で、物価の高騰により経費が増加する中、各種委員会等における書面での決議やオンラインでの開催により、引き続き、執行額の削減に努めている。特に、年次大会について大会実行委員会の尽力により、見込まれた予算よりも大幅に支出が減少し、全体の支出が抑制できた。また、受取会費は会員の減少傾向を見込んで作成した予算額を上回り、前年度よりも微増するなど、会員の大幅な減少はみられないものの、会員の動向には引き続き注視する必要がある。現在、学会活動の活性化を目指して、次世代を担う学生会員への支援措置の提案を予定している。

年度当初予算案では、精査した実施予定の事業予算をすべて計上したことから、650 万円の赤字予算案であった。しかしながら、上記の通りの事業実施形態の変更や支出抑制の努力、および学会外からの支援などにより予算作成時の赤字（650 万円）にはならず、277 万円の黒字となった。

3. 経常外増減の部

なし

以上の結果、当期一般正味財産増減額は、+277 万円であった。

一般正味財産期首残高は 1 億 5,816 万円であったので、同期末残高は 1 億 6093 万円となった。

指定正味財産増減の部

2023 年度から学会創立 100 周年事業および次世代への支援拡充のために寄付を募っている。当年度は 50 万円を見込んでいたが、予算額を大幅に上回る寄付があり、指定正味財産期末残高は 239 万円となった。

以上の結果から、正味財産期末残高は 1 億 6,332 万円となった。

予算対比正味財産増減計算書
2023年3月1日から2024年2月29日まで

(単位：円)

1/2

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	400	169	231	
基本財産受取利息	(400)	(169)	231	
② 特定資産運用益	10,000	1,540	8,460	
特定資産受取利息	(10,000)	(1,540)	8,460	
③ 受取入金	450,000	750,000	△ 300,000	
受取入金	(450,000)	(750,000)	△ 300,000	3,000円×250人
④ 受取会費	23,350,000	24,812,500	△ 1,462,500	
正会員受取会費	(17,500,000)	(18,371,500)	△ 871,500	12,500円×1469人
学生会員受取会費	(750,000)	(1,245,000)	△ 495,000	7,500円×166人
団体会員受取会費	(1,600,000)	(1,600,000)	0	20,000円×80団体
欧文誌購読会費受取会費	(1,200,000)	(1,296,000)	△ 96,000	6,000円×216人
賛助会員受取会費	(2,300,000)	(2,300,000)	0	50,000円×46口
⑤ 事業収益	22,008,400	22,995,718	△ 987,318	
会誌刊行等事業収益	(9,470,000)	(11,515,795)	△ 2,045,795	
会誌委託販売	(950,000)	(733,544)	216,456	養賢堂/会誌委託販売
会誌投稿料・別刷り代等	(2,000,000)	(2,511,531)	△ 511,531	94巻2号～95巻1号
欧文誌委託販売	(6,500,000)	(7,627,519)	△ 1,127,519	Taylor & Francis社ロイヤルティ
その他印刷物	(0)	(0)	0	進歩総説 (PDF) 国際文献社
出版物印税	(20,000)	(643,201)	△ 623,201	朝倉書店/日本の土壌事典 他
大会収入	(10,038,400)	(8,851,010)	1,187,390	愛媛大会決算に基づく
参加料	(4,930,000)	(4,965,000)	△ 35,000	会員486名、学生197名、非会員112名
発表料	(500,000)	(448,000)	52,000	1,000円×448題
懇親会費	(2,800,000)	(2,298,000)	502,000	
雑収入	(1,808,400)	(1,140,010)	668,390	寄付金、展示、広告、利息
広告料収入	(700,000)	(693,000)	7,000	94巻2号～95巻1号
支部大会収入	(1,800,000)	(1,935,913)	△ 135,913	支部大会参加費、賛助金他含む
⑥ 受取補助金等	0	0	0	
⑦ 受取助成金	0	0	0	
⑧ 受取寄付金	110,000	128,565	△ 18,565	
受取寄付金	(110,000)	(128,565)	△ 18,565	SSPN Award副賞(Taylor & Francis社)
受取寄付金振替額	(0)	(0)	0	
⑨ 受託収入	0	0	0	
受託金	(0)	(0)	0	
⑩ 雑収入	50,000	802,880	△ 752,880	
受取利息	0	(487)	△ 487	普通預金利息
雑収益	(50,000)	(802,393)	△ 752,393	消費税還付金、学術著作権協会、未払法人税取崩
経常収益計	45,978,800	49,491,372	△ 3,512,572	
(2) 経常費用				
① 事業費	32,582,717	26,668,059	5,914,658	
年次大会開催費	9,903,817	(7,136,789)	2,767,028	
会場費	(165,154)	(418,290)	△ 253,136	
人件費	(1,400,000)	(783,375)	616,625	
運営費	(298,750)	(547,111)	△ 248,361	運営諸費用
年次大会管理費	(4,236,650)	(2,942,940)	1,293,710	運営業務委託費等
大会関係印刷費	(1,112,863)	(935,000)	177,863	WEB要旨集等
懇親会費	(2,552,000)	(1,328,413)	1,223,587	
その他雑費	(138,400)	(181,660)	△ 43,260	
年次大会開催支援費	(397,200)	(167,000)	230,200	賛助会員への支援 等
会誌刊行費	11,370,000	(10,921,310)	448,690	94巻2号～95巻1号
印刷製本費	(6,000,000)	(6,904,418)	△ 904,418	
通信運搬費	(1,800,000)	(1,191,348)	608,652	
編集費	(3,570,000)	(2,825,544)	744,456	
欧文誌刊行費	2,800,000	(2,213,966)	586,034	
印刷製本費	(1,900,000)	(1,675,966)	224,034	
編集費	(900,000)	(538,000)	362,000	
各種委員会等運営費	927,600	(395,498)	532,102	
土壌教育委員会	(650,000)	(228,328)	421,672	委員会費、高校生研究発表会宿泊補助、等
広報委員会	(257,600)	(167,170)	90,430	エコプロ プース代、等
その他	(20,000)	(0)	20,000	

次頁に続く

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
学術交流費	750,000	(474,082)	275,918	公開シンポジウム
国際交流費	970,000	(245,200)	724,800	第7回国際土壌分類会議の準備支援費、等
事業関係通信運搬費	100,000	(73,100)	26,900	振込手数料他
事業関係雑費	60,000	(0)	60,000	
事業関係業務委託費	467,500	(0)	467,500	
農学会等分担金	270,000	(215,550)	54,450	日本農学会、学術協力財団他
HP管理費	156,600	(159,500)	△ 2,900	
顕彰費	810,000	(810,000)	0	学会賞、貢献賞、技術賞、技術奨励賞、論文賞、SSPN副賞
女性・若手支援費	1,200,000	(700,000)	500,000	若手支援2名、奨励賞5名、若手の会
国際土壌年事業費	100,000	(0)	100,000	
100周年記念事業費	300,000	(230,042)	69,958	ロゴマーク賞金、100周年シンポジウム
支部大会開催費	2,000,000	(2,926,022)	△ 926,022	
② 管理費	19,892,550	20,051,912	△ 159,362	
役員報酬	2,400,000	(2,400,000)	0	
給料手当	4,160,000	(4,152,000)	8,000	
退職給付費用	233,550	(233,550)	0	退職給付引当金繰入
法定福利費	700,000	(763,017)	△ 63,017	社会保険・労働保険
福利厚生費	95,000	(12,673)	82,327	健康診断
会議費	100,000	(170,931)	△ 70,931	
総会	70,000	(58,200)	11,800	
理事会	10,000	(10,021)	△ 21	
部門長会	5,000		5,000	
選考委員会	5,000	(3,290)	1,710	
選挙管理委員会	0		0	
その他会議費	10,000	(99,420)	△ 89,420	和文誌編集委員会、欧文誌編集委員会、支部長連絡会、等
旅費交通費	2,400,000	(2,236,040)	163,960	
通信運搬費	850,000	(1,038,955)	△ 188,955	電話FAX・切手・宅急便、Zoom契約料、他
什器備品費	50,000	(0)	50,000	
消耗品費	204,000	(235,436)	△ 31,436	
印刷製本費	400,000	(234,812)	165,188	総会資料他
事務所賃料等	3,190,000	(3,119,147)	70,853	事務所家賃・共益費
光熱水料費	250,000	(310,317)	△ 60,317	
リース料	330,000	(332,005)	△ 2,005	PC、FAX等
保険料	30,000	(25,520)	4,480	家賃保証
租税公課	800,000	(881,750)	△ 81,750	法人税、消費税
業務委託費	3,600,000	(3,905,759)	△ 305,759	会員管理、会計業務
雑費	100,000	(0)	100,000	
経常費用計	52,475,267	46,719,971	5,755,296	
当期経常増減額	△ 6,496,467	2,771,401	△ 9,267,868	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 6,496,467	2,771,401	△ 9,267,868	
一般正味財産期首残高	158,163,467	158,163,467	0	
一般正味財産期末残高	151,667,000	160,934,868	△ 9,267,868	
II 指定正味財産増減の部				
① 受取補助金等				
受取寄付金	500,000	2,389,000	△ 1,889,000	学会創立100周年事業および次世代への支援拡充への寄付
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	500,000	2,389,000	△ 1,889,000	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	500,000	2,389,000	△ 1,889,000	
III 正味財産期末残高	152,167,000	163,323,868	△ 11,156,868	

財産目録
2024年2月29日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金			
現金手許有高		運転資金として	143,913
普通預金		運転資金として	50,396,077
	みずほ銀行本郷支店(普)-1	運転資金として	(26,912,721)
	みずほ銀行(養賢堂)本郷支店(普)-2	運転資金として	(19,448,007)
	みずほ銀行本郷支店(普)-3	運転資金として	(3,705,988)
	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-5	運転資金として	(329,361)
郵便振替貯金	00130-2-65874	運転資金として	11,299,877
支部現金預金			5,353,120
(1) 北海道支部		運転資金として	(1,131,690)
(2) 東北支部		運転資金として	(750,486)
(3) 関東支部		運転資金として	(764,373)
(4) 中部支部		運転資金として	(691,811)
(5) 関西支部		運転資金として	(1,057,217)
(6) 九州支部		運転資金として	(957,543)
現金預金合計			67,192,987
仮払金			
(1) 国際シンポジウム			750,000
仮払金合計			750,000
未収金			
(1) 会費(団体会員)		2023年度	860,000
(2) 会費(賛助会員)			
(3) 会誌投稿料・別刷代		2023年度	552,420
(4) 欧文誌委託販売		2023年度	4,127,519
(5) 広告料		2023年度	264,000
(6) 会誌委託販売		2023年度	120,058
未収金合計			5,923,997
流動資産合計			73,866,984
(固定資産)			
基本財産			
基本財産合計	みずほ銀行本郷支店(定)-1		10,000,000
特定資産			10,000,000
国際シンポジウム準備積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-2		6,170,000
女性・若手会員支援事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-3		17,700,000
表彰事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-4		2,000,000
記念事業積立金	みずほ銀行本郷支店(普)-4		14,389,126
退職給付引当積立預金	みずほ銀行本郷支店(定)-5		2,560,410
事務所維持等積立金	三菱UFJ銀行本郷支店(定)-6		62,160,000
特定資産合計			104,979,536
その他固定資産			
保証金	タムビル敷金		(756,160)
	AIG損害保険		(39,000)
その他固定資産合計			795,160
固定資産合計			115,774,696
資産合計			189,641,680
(流動負債)			
未払金		会誌刊行費、会計業務費他	4,705,004
未払法人税等		法人税概算額	800,000
前受会費		2024年度以降分会費	14,605,000
前受金		テイラー&フランス社 ロイヤリティ、寄付金(2024年度分)	3,500,000
預り金		源泉税・社会保険	132,398
仮受金		当期入金分	15,000
流動負債合計			23,757,402
(固定負債)			
(1) 退職給付引当金			2,560,410
負債合計			26,317,812
正味財産			163,323,868

貸借対照表
2024年2月29日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	67,192,987	59,109,195	8,083,792
前払金	0	0	0
仮払金	750,000	500,000	250,000
未収金	5,923,997	6,250,648	△ 326,651
流動資産合計	73,866,984	65,859,843	8,007,141
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	2,000,000	0
記念事業積立金	14,389,126	12,000,019	2,389,107
退職給付引当預金	2,560,410	2,326,860	233,550
事務所維持等積立金	62,160,000	68,160,000	△ 6,000,000
特定資産合計	104,979,536	108,356,879	△ 3,377,343
(3) その他固定資産			
保証金	795,160	795,160	0
その他固定資産合計	795,160	795,160	0
固定資産合計	115,774,696	119,152,039	△ 3,377,343
資産合計	189,641,680	185,011,882	4,629,798
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,705,004	2,936,350	1,768,654
未払法人税等	800,000	4,300,000	△ 3,500,000
前受会費	14,605,000	13,553,500	1,051,500
前受金	3,500,000	3,628,565	△ 128,565
預り金	132,398	103,140	29,258
仮受金	15,000	0	15,000
流動負債合計	23,757,402	24,521,555	△ 764,153
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,560,410	2,326,860	233,550
固定負債合計	2,560,410	2,326,860	233,550
負債合計	26,317,812	26,848,415	△ 530,603
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
記念事業寄付金	2,389,000	0	2,389,000
指定正味財産合計	2,389,000	0	2,389,000
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,389,000)	(0)	(2,389,000)
2. 一般正味財産	160,934,868	158,163,467	2,771,401
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(100,030,126)	(106,030,019)	(△5,999,893)
正味財産合計	163,323,868	158,163,467	5,160,401
負債及び正味財産合計	189,641,680	185,011,882	4,629,798

正味財産増減計算書

2023年3月1日から2024年2月29日まで

1/2

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	169	169	0
基本財産受取利息	(169)	(169)	0
② 特定資産運用益	1,540	1,426	114
特定資産受取利息	(1,540)	(1,426)	114
③ 受取入会金	750,000	552,000	198,000
受取入会金	(750,000)	(552,000)	198,000
④ 受取会費	24,812,500	24,268,050	544,450
正会員受取会費	(18,371,500)	(18,052,500)	319,000
学生会員受取会費	(1,245,000)	(1,005,550)	239,450
団体会員受取会費	(1,600,000)	(1,640,000)	△ 40,000
欧文誌購読会員受取会費	(1,296,000)	(1,320,000)	△ 24,000
賛助会員受取会費	(2,300,000)	(2,250,000)	50,000
⑤ 事業収益	22,995,718	19,674,723	3,320,995
印刷物収入	(11,515,795)	(11,310,926)	204,869
大会収入	(8,851,010)	(6,327,061)	2,523,949
広告料収入	(693,000)	(693,000)	0
支部大会収入	(1,935,913)	(1,343,736)	592,177
⑥ 受取補助金等	0	0	0
受取補助金	(0)	(0)	0
⑦ 受取助成金	0	0	0
受取助成金	(0)	(0)	0
⑧ 受取寄付金	128,565	472,714	△ 344,149
受取寄付金	(128,565)	(131,324)	△ 2,759
受取寄附金振替額	(0)	(341,390)	△ 341,390
⑨ 受託収益	0	0	0
受託収益	(0)	(0)	0
⑩ 雑収入	802,880	438,120	364,760
受取利息	(487)	(514)	△ 27
雑収益	(802,393)	(437,606)	364,787
支部雑収入	(0)	(0)	0
経常収益計	49,491,372	45,407,202	4,084,170
(2) 経常費用			
① 事業費	26,668,059	22,694,390	3,973,669
年次大会開催費	(7,136,789)	(5,973,469)	1,163,320
年次大会開催支援費	(167,000)	(0)	167,000
会誌刊行費	(10,921,310)	(9,568,585)	1,352,725
欧文誌刊行費	(2,213,966)	(2,143,807)	70,159
各種委員会等運営費	(395,498)	(355,439)	40,059
学術交流費	(474,082)	(300,000)	174,082
国際交流費	(245,200)	(1,182,505)	△ 937,305
事業関係通信運搬費	(73,100)	(79,260)	△ 6,160
事業関係雑費	(0)	(0)	0
事業関係業務委託費	(0)	(0)	0
農学会等分担金	(215,550)	(233,100)	△ 17,550
HP管理費	(159,500)	(159,500)	0
顕彰費	(810,000)	(680,000)	130,000
女性・若手支援費	(700,000)	(657,118)	42,882
100周年記念事業費	(230,042)	(0)	230,042
支部大会開催費	(2,926,022)	(1,361,607)	1,564,415

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費	20,051,912	22,986,104	△ 2,934,192
役員報酬	(2,400,000)	(2,400,000)	0
給料手当	(4,152,000)	(4,100,800)	51,200
退職給付費用	(233,550)	(230,670)	2,880
法定福利費	(763,017)	(707,873)	55,144
福利厚生費	(12,673)	(12,669)	4
会議費	(170,931)	(80,674)	90,257
旅費交通費	(2,236,040)	(1,615,120)	620,920
通信運搬費	(1,038,955)	(979,470)	59,485
消耗品費	(235,436)	(247,295)	△ 11,859
印刷製本費	(234,812)	(475,138)	△ 240,326
事務所賃料等	(3,119,147)	(3,379,078)	△ 259,931
光熱水料費	(310,317)	(272,678)	37,639
リース料	(332,005)	(329,255)	2,750
保険料	(25,520)	(22,040)	3,480
租税公課	(881,750)	(4,371,450)	△ 3,489,700
業務委託費	(3,905,759)	(3,736,704)	169,055
雑費	(0)	(25,190)	△ 25,190
経常費用計	46,719,971	45,680,494	1,039,477
当期経常増減額	2,771,401	△ 273,292	3,044,693
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,771,401	△ 273,292	3,044,693
一般正味財産期首残高	158,163,467	158,436,759	△ 273,292
一般正味財産期末残高	160,934,868	158,163,467	2,771,401
II 指定正味財産増減の部			
① 受取補助金等			
一般正味財産への振替額	0	341,390	△ 341,390
当期指定正味財産増減額	2,389,000	△ 341,390	2,730,390
指定正味財産期首残高	0	341,390	△ 341,390
指定正味財産期末残高	2,389,000	0	2,389,000
III 正味財産期末残高	163,323,868	158,163,467	5,160,401

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

税込処理

2. 会計方針の変更

なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	0	6,170,000
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	0	17,700,000
表彰事業積立金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際関連活動基金	0	0	0	0
記念事業積立金	12,000,019	2,389,107	0	14,389,126
退職給付引当預金	2,326,860	233,550	0	2,560,410
事務所維持等積立金	68,160,000	0	6,000,000	62,160,000
小 計	108,356,879	2,622,657	6,000,000	104,979,536
合 計	118,356,879	2,622,657	6,000,000	114,979,536

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小 計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	0	2,000,000	0
記念事業積立金	14,389,126	2,389,000	12,000,126	0
退職給付引当預金	2,560,410	0	0	2,560,410
事務所維持等積立金	62,160,000	0	62,160,000	0
小 計	104,979,536	2,389,000	100,030,126	2,560,410
合 計	114,979,536	2,389,000	110,030,126	2,560,410

5. 担保に供している資産

なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	5,923,997	0	5,923,997
合 計	5,923,997	0	5,923,997

7. 保証債務等の偶発債務

なし

8. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

なし

9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	0
経常外収益への振替額	0
合 計	0

10. 重要な後発事象

なし

附 属 明 細 書
2024年2月29日現在

1 . 基本財産及び特定資産の明細

『 財務諸表に対する注記 』 の通り

2 . 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,326,860	233,550	0	0	2,560,410

2024年3月15日

監査報告書

一般社団法人 日本土壌肥料学会
会長 藤原 徹 殿

監事 深見元弘 

監事 伊藤 治 

私たち監事は、2023年3月1日から2024年2月29日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法および結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

第2号議案 2024年度事業計画案および収支予算案

I. 2024年度事業計画案（令和6年3月1日～令和7年2月28日）

1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壌肥科学雑誌（第95巻第2号～第6号および第96巻第1号の計6冊、A4判）、Soil Science and Plant Nutrition（Vol.70, No.2～No.6、Vol.71, No.1の計6冊、A4判）を刊行する。また、2024年度福岡大会に際して日本土壌肥科学会講演要旨集（第70集）を電子版として刊行する。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

1) 「土と肥料」の講演会

2024年5月18日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館大会議室において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「土壌管理のデジタル化を目指して」とし、講演者と演題は、丹羽勝久氏（株式会社ズコーシャ）「リモートセンシング技術を活用した土壌情報の面的評価」、朝田景氏（農研機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域）「土壌の窒素見える化ツールの開発と適切な窒素施肥に向けた活用」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

2) 学会創立100周年シンポジウム

(1) テーマシンポジウム

土壌肥科学分野の具体的な研究成果や技術の叡智、学問としての面白さをこれから専門分野に進んでくる高校生や大学初年次生に向けて、また、一般向けに分かりやすく発信し、持続可能な社会構築に貢献することを目指して、会員応募企画に基づき公開シンポジウムを開催する。

2024年度は、「サステイナブルな未来を創る土壌・植物科学」をテーマとして3回（第1回「地球温暖化解決への土壌からのアプローチ」、第2回「持続的食糧生産（仮題）」、第3回「土壌・生態系保全（仮題）」）開催する。また、「腐植物質の有効利用による農業生産力の強化と増強」をテーマとするシンポジウムを開催する。

(2) 支部大会シンポジウムの限定公開

支部大会において開催した学会創立100周年の記念シンポジウムの動画を期間限定で学会YouTubeチャンネルに公開する。

3) 2024年度年次大会

2024年度福岡大会は、9月3日（火）～5日（木）に福岡国際会議場において一般講演の口頭発表、ポスター発表およびシンポジウムを対面方式で行う。一般講演では、若手口頭発表優秀賞および若手ポスター発表優秀賞を選考し、表彰する。また、高校生による研究発表会を行い、優秀発表を表彰する。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員から公募し、これを基に部門長会議で検討して設定する。

学会賞等授賞式では、第 69 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 29 回同技術賞 2 名、第 42 回同奨励賞 5 名、第 13 回同技術奨励賞 1 名、日本土壌肥料学雑誌論文賞 2 件、SSPN Award 1 件に各賞を授与する。各賞の受賞者および受賞業績は以下の通り。

第 69 回日本土壌肥料学会賞受賞者と受賞業績

- ・江口定夫：人－土壌－環境の相互作用下の窒素等物質循環の定量化とモデル化
- ・高野順平：栄養輸送体による栄養感知と細胞内局在制御の解明
- ・矢内純太：土壌肥沃度の時空間変動の解析と持続的農業への応用

第 29 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者と受賞業績

- ・篠原 信：有機質肥料活用型養液栽培および土壌創製技術の開発
- ・西村誠一：多様な農地管理における温室効果ガスの発生実態の解明と排出削減技術に関する研究

第 42 回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者と受賞業績

- ・アシルオグル ムハンメット ラシット：水田土壌における原生生物の生態と機能に関する研究
- ・菅波真央：イネの光合成改良に向けた Rubisco と Rubisco 活性化酵素に関する研究
- ・反田直之：栄養輸送や応答の数理モデル研究
- ・永野博彦：多様な研究手法を用いた陸域生態系における温室効果ガス動態の解明
- ・吉成 晃：植物のホウ酸輸送体の細胞内輸送機構の研究

第 13 回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者と受賞業績

- ・中村嘉孝：有機質資材の長期的影響をふまえた砂質畑における施用基準の策定

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者と受賞論文題目

- ・安藤 薫、糟谷真宏、中尾 淳、中島聡美、村野宏達、中村嘉孝、瀧 勝俊、矢内純太：愛知県露地野菜畑土壌における非交換態カリウム含量の規定要因および作物カリウム吸収への寄与 日本土壌肥料学雑誌 第 94 巻第 3 号 163～169 (2023)
- ・平野七恵、江口定夫、織田健次郎、松本成夫：物流データに基づく日本の食料供給システム及び畜産業セクターにおける過去 40 年間の窒素フローと窒素利用効率の解析 日本土壌肥料学雑誌 第 94 巻第 1 号 11～26 (2023)

SSPN Award 受賞者と受賞論文題目

- ・Ayane Kan, Hayato Maruyama, Nao Aoyama, Jun Wasaki, Yoshiko Tateishi, Toshihiro Watanabe, Takuro Shinano: Relationship between soil phosphorus dynamics and low-phosphorus responses at specific root locations of white lupine *Soil Sci. Plant Nutr.*, 68(5-6), 526-535 (2022)

学会賞等授賞式に引続き、第 69 回日本土壌肥料学会賞 3 名、第 29 回同技術賞 2 名、第 42 回同奨励賞 5 名、第 13 回同技術奨励賞 1 名の受賞記念講演および 2024（令和 6）年度日本農学賞・読売農学賞受賞者の波多野隆介氏による特別講演を行う。また、論文賞 2 件および SSPN Award 1 件の受賞者については、受賞記念ポスターを展示する。

受賞記念講演および特別講演に引続き、懇親会を開催する。

4) 支部大会等

- ・北海道支部：2024 年度北海道支部秋季支部大会・支部総会(12/5、旭川市民文化会館、旭川市)を開催する。また、評議員会(6 月上旬、11 月上旬メール会議)、野外巡検を予定している。
- ・東北支部：2024 年度東北支部大会、支部役員会、支部総会、支部大会企画講演および記念講演を開催する（7 月、青森県内）。
- ・関東支部：2024 年度関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する（11/1、山梨県立図書館、甲府市）を開催する。
- ・中部支部：2024 年度中部支部特別講演会・支部大会・支部総会（11 月、愛知県内）、評議員会（6 月、11 月）を開催する。また、土壌教育活動事業として土壌観察会（7 月）および岡崎北高校 1 年生対象の連携講座（8 月）を愛知県豊田市自然観察の森において開催する。
- ・関西支部：2024 年度関西支部講演会（12 月上旬、鳥取市）、関西土壌肥料協議会シンポジウムおよび関西支部と関西土壌肥料協議会の合同役員会を開催する。
- ・九州支部：2024 年度九州支部例会、支部賞選考委員会、支部常議員会並びに支部総会（開催日および開催場所は調整中、鹿児島県内）を開催する。
- ・支部長連絡会：2024 年度支部長連絡会は、2024 年度福岡大会前にオンライン開催を予定し、支部間および本部－支部間の情報および意見交換を行う。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第 70 回日本土壌肥料学会賞、第 30 回同技術賞、第 43 回同奨励賞、第 14 回同技術奨励賞、第 14 回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本農学会に協力し、日本農学会シンポジウムのテーマ企画および話題提供者の推薦を行う。
- ・日本学術会議の発信情報を、学会 HP などを通じて会員へ提供するとともに、土壌科学分科会、IUSS 分科会などと協力して IUSS の諸活動に連携する。
- ・ESAFSサポートオフィスを通じて関連情報を発信する。
- ・本学会が加盟（オブザーバー加盟を含む）している地理学連携機構、福島復興・廃

炉推進に貢献する学協会連絡会、男女共同参画学協会連絡会を通じて関連学協会と連携する。

- ・第16回ESAFS（3/26～29、タイグエン市）に代表者派遣を行う。
- ・IUSS100周年記念祝賀会および総会（5/19～21、フィレンツェ市）へ担当者派遣を行う。
- ・第36回環境工学連合講演会（5/28、オンライン）を共催し、本学会の中尾淳会員が「リジェネラティブでカーボン・オフセットな農業に向けた風化促進技術の開発」を講演する。
- ・栃木県立博物館主催観察会「たんぼ物語」（6/1、8/24）を後援する。
- ・第7回国際土壌分類会議（7th ISCC：6/3～9、北海道道東地域）を共催する。
- ・第60回アイソトープ・放射線研究発表会（7/3～5、東京都）を協賛する。
- ・第34回環境工学総合シンポジウム2024（7/17～19、和歌山県高野町）を協賛する。
- ・地盤技術フォーラム2024（9/18～20、東京都）を協賛する。
- ・第9回土壌鉱物・有機物・微生物の相互作用に関する国際シンポジウム（ISMOM2024：10/15～18、つくば市）を共催する。
- ・IUSS中間会議2024（10/20～24、南京市）への担当者の派遣

5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：2025年度総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、中長期視点から財政収支バランスの改善策を検討し、理事会へ提案する。
- ・国際対応：①IUSS、ESAFSを中心に情報収集・発信および渉外対応により、国際土壌の10年関連活動を継続する。②2024年度に共催予定の日本開催国際会議の開催を支援する。
- ・部門長会議：①年次大会におけるシンポジウム企画応募案の検討および一般講演プログラムの編成、優秀発表賞の選考を行う。②会誌進歩総説、欧文誌特集の企画を検討する。
- ・土壌教育委員会：①福岡大会において高校生による研究発表会を実施する。②教員研修およびその他の普及事業を行う（時期および場所未定）。③第9部門と連携した各種事業を行う。
- ・広報：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②学会公式SNSによる情報発信拡充を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロ2024にブースを出展する（12月）。
- ・学会創立100周年事業準備委員会：2027年の学会創立100周年に向けた事業企画を検討・立案し、理事会に提案する。

6. その他

本学会の目的達成のため、以下の事業を行う。

- 外部の顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- 学会創立 100 周年事業の企画検討を進め、その財政基盤の確保を図りつつ、先行して取組む事業を実施する。
- 学会創立 100 周年事業の推進、若手会員支援の一助とするため、寄付募集を継続する。
- 会員確保の一環として 2023 年度に行った年次大会への招待などの賛助会員へ提供するサービスを継続する。

Ⅱ. 2024 年度収支予算案

一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部の経常収益

前年度予算額よりも 389 万円増の 4,987 万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ④受取会費／学生会員受取会費は(前年度予算額よりも 150 万円増)225 万円。
令和 6 年度は学生会員会費免除措置をとらないため、会員数を基に算定。
- ⑤事業収益／大会収入は(同 239 万円増) 1,243 万円。参加料、懇親会費、雑収入では協賛金等を見込んでいる。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

特になし

2. 経常増減の部の経常費用

前年度予算額よりも 418 万円増の 5,665 万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ①事業費／年次大会開催費は(前年度予算額よりも 253 万円増) 1,243 万円。
- 同／各委員会等運営費で(同 52 万円増) 144 万円。土壤教育委員会活動、広報活動、モノリス展示等。
- 同／国際シンポジウムは ISCC と ISMOM の支援で(同 140 万円増) 140 万円。
- 同／100 周年記念事業費はシンポジウムの開催、記念グッズ作成などで(同 30 万円増) 60 万円。
- ②管理費／通信運搬費は Zoom ミーティング、ウェビナーの契約で(同 17 万円増) 102 万円。
- 同／事務所賃料は(同 10 万円増) 329 万円。更新料を含む。
- 同／リース料は PC リース更新で(同 22 万円増) 55 万円。
- 同／雑費は PC リース設置・調整費等で(同 40 万円増) 50 万円。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ①事業費／欧文誌刊行費は(前年度予算額よりも 45 万円減) 235 万円。事務手

数料廃止やネット利用料廃止、投稿数減少による。

- 同／国際交流費は（同 37 万円減）60 万円。ESAFS への代表者派遣、IUSS 100 周年記念祝賀会及び総会、IUSS 中間会議への担当者派遣。
- ②管理費／旅費交通費はオンライン会議を含む会議形態の採用により、会議にかかる旅費交通費を抑えたため、（同 20 万円減）220 万円。

これらのことから、当期経常増減額は 678 万円の赤字が見込まれる。前年度経常増減額 650 万円に比べて赤字が増加したのは、管理費の増加、国際シンポジウムの開催支援、学会創立 100 周年事業の実施などによる。ただし、引き続き、各事業においても従来の開催形態をとりつつオンラインを含めた委員会運営などにより、経費の削減も考慮した予算計上を行っている。

なお、残念ながら会員数の減少傾向は続いていることから、若手支援のための学生会費の値下げを検討する他、学会活動の活性化に向けて協議を続ける。また、次年度以降も一層の節制に努めるとともに、計画した事業の実施についても収支の状況をみながら検討する必要がある。

指定正味財産増減の部

2023 年度から、学会創立 100 周年事業などのため、寄付を募っており、多くの寄付をいただいている。2024 年度も引き続き寄付を募る予定であり、寄付の受取額は 50 万円程度を見込んでいる。

以上の結果から、正味財産期末残高は前年度決算額から 628 万円減の 1 億 5,705 万円が見込まれる。

(一社) 日本土壌肥料学会2024年度収支予算書(損益ベース)(案)

2024年3月1日から2025年2月28日まで

1/2

(単位:円)

科 目	予算額	前年予算額	差 額	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	400	400	0	
基本財産受取利息	(400)	(400)	0	
② 特定資産運用益	10,000	10,000	0	
特定資産受取利息	(10,000)	(10,000)	0	
③ 受取入会金	450,000	450,000	0	
受取入会金	(450,000)	(450,000)	0	3,000円×150人(見込)
④ 受取会費	24,850,000	23,350,000	1,500,000	
正会員受取会費	(17,500,000)	(17,500,000)	0	12,500円×1,400人(見込)
学生会員受取会費	(2,250,000)	(750,000)	1,500,000	7,500円×300人(見込)
団体会員受取会費	(1,600,000)	(1,600,000)	0	20,000円×80団体(実績)
欧文誌購読会費	(1,200,000)	(1,200,000)	0	6,000円×200人(実績)
賛助会員受取会費	(2,300,000)	(2,300,000)	0	50,000円×46口(実績)
⑤ 事業収益	24,402,600	22,008,400	2,394,200	
会誌刊行等事業収益	(9,470,000)	(9,470,000)	0	
会誌委託販売	(950,000)	(950,000)	0	
会誌投稿料・別刷り代等	(2,000,000)	(2,000,000)	0	95(2)~96(1)
会誌バックナンバー等	(0)	(0)	0	
欧文誌委託販売	(6,500,000)	(6,500,000)	0	Taylor & Francis、69(1)~70(1)
講演要旨集(大会時外)	(0)	(0)	0	バックナンバー等
その他印刷物	(0)	(0)	0	
出版物印税	(20,000)	(20,000)	0	博友社印税
大会収入	(12,432,600)	(10,038,400)	2,394,200	福岡大会運営委修正予算案に基づく
参加料	(6,200,000)	(4,930,000)	1,270,000	
発表料	(500,000)	(500,000)	0	
講演要旨集(大会時)	(0)	(0)	0	
懇親会費	(2,750,000)	(2,800,000)	△ 50,000	
雑収入	(2,982,600)	(1,808,400)	1,174,200	協賛金、寄付金、保育室利用料等
広告料	(700,000)	(700,000)	0	(実績)
支部大会収入	(1,800,000)	(1,800,000)	0	
⑥ 受取補助金等	0	0	0	
受取補助金	(0)	(0)	0	
⑦ 受取助成金	0	0	0	
受取助成金	(0)	(0)	0	
⑧ 受取寄付金	110,000	110,000	0	
受取寄付金	(110,000)	(110,000)	0	SSPN Award副賞(Taylor & Francis)
受取寄附金振替額	(0)	(0)	0	
⑨ 受託収入	0	0	0	
受託金	(0)	(0)	0	
⑩ 雑収入	50,000	50,000	0	
受取利息	(0)	(0)	0	
雑収益	(50,000)	(50,000)	0	
支部雑収入	(0)	(0)	0	
経常収益計	49,873,000	45,978,800	3,894,200	
(2) 経常費用				
① 事業費	35,788,100	32,582,717	3,205,383	
年次大会開催費	12,432,600	9,903,817	2,528,783	福岡大会運営委修正予算案に基づく
会場費	(3,898,180)	(165,154)	3,733,026	会場費
人件費	(787,500)	(1,400,000)	△ 612,500	アルバイト代
運営費	(550,000)	(298,750)	251,250	
年次大会管理費	(3,011,320)	(4,236,650)	△ 1,225,330	HP作成・運営、登録受付、演題要旨受付/後処理等
大会関係印刷費	(928,000)	(1,112,863)	△ 184,863	WEB要旨作成・参加証等
懇親会費	(2,750,000)	(2,552,000)	198,000	
その他雑費	(507,600)	(138,400)	369,200	エクスカージョン、保育室設置料
年次大会開催支援費	498,800	397,200	101,600	賛助会員サービス拡充、託児所経費
会誌刊行費	11,370,000	11,370,000	0	95(2)~96(1)
印刷製本費	(6,000,000)	(6,000,000)	0	
通信運搬費	(1,800,000)	(1,800,000)	0	
編集費	(3,570,000)	(3,570,000)	0	国際文献社編集費、査読システム利用料等
欧文誌刊行費	2,350,000	2,800,000	△ 450,000	69(1)~70(1)
印刷製本費	(1,500,000)	(1,900,000)	△ 400,000	
編集費	(850,000)	(900,000)	△ 50,000	

次頁に続く

科 目	予算額	前年予算額	差 額	備 考
各種委員会等運営費	1,442,600	927,600	515,000	
土壌教育委員会	(802,000)	(650,000)	152,000	土壌教育委員会活動
広報委員会	(270,600)	(257,600)	13,000	広報活動(エコプロ出展他)
その他	(370,000)	(20,000)	350,000	モノリス展示、男女共同参画学会会費 等
学术交流費	60,000	750,000	△ 690,000	土と肥料の講演会等
国際交流費	600,000	970,000	△ 370,000	ESAFS, IUSS(フイルツェ), IUSS(南京)派遣
事業関係通信運搬費	100,000	100,000	0	
事業関係雑費	60,000	60,000	0	雑費の経費算入(会計独自)
事業関係業務委託費	467,500	467,500	0	会誌J-stage未掲載分の掲載
農学会等分担金等	270,000	270,000	0	日本農学会分担金、日本学術協力財団
HP管理費	156,600	156,600	0	HP更新、メルマガ運用
顕彰費	680,000	810,000	△ 130,000	学会賞、技術賞、技術奨励賞 他
女性・若手支援費	1,200,000	1,200,000	0	奨励賞、渡航支援、若手の会補助 他
国際シンポジウム費	1,400,000	0	1,400,000	ISMOM、ISCC開催支援
国際土壌年事業費	100,000	100,000	0	支部大会補助(会計独自案)
100周年記念事業費	600,000	300,000	300,000	記念シンポジウム、記念グッズ、支部大会補助等
支部大会開催費	2,000,000	2,000,000	0	
② 管理費	20,863,700	19,892,550	971,150	
役員報酬	2,400,000	2,400,000	0	
給料	4,305,600	4,160,000	145,600	
法定福利費	700,000	700,000	0	労働保険・社保
福利厚生費	95,000	95,000	0	健診等
臨時雇い賃金	0	0	0	
会議費	115,000	100,000	15,000	
総会	(70,000)	(70,000)	0	
理事会	(10,000)	(10,000)	0	
部門長会	(0)	(5,000)	△ 5,000	
選考委員会	(15,000)	(5,000)	10,000	オンライン投票契約料 等
選挙管理委員会	(5,000)	(0)	5,000	
その他会議費	(15,000)	(10,000)	5,000	支部長連絡会 等
旅費・交通費	2,200,000	2,400,000	△ 200,000	
通信運搬費	1,015,000	850,000	165,000	Zoom(ミーツング+ウエビナ)契約料 等
什器備品費	50,000	50,000	0	
消耗品費	204,000	204,000	0	
印刷製本費	450,000	400,000	50,000	総会資料等
事務所賃料等	3,290,000	3,190,000	100,000	事務所家賃・共益費・更新料
光熱水料費	250,000	250,000	0	
リース料	550,000	330,000	220,000	PC、FAX等(PCはリース更新)
保険料	70,000	30,000	40,000	建物の損害保険料、家賃保証
租税公課	800,000	800,000	0	消費税、法人税、他(試算)
業務委託費	3,600,000	3,600,000	0	会員管理、会計業務
雑費	500,000	100,000	400,000	PCリース設置・調整費等
退職給付引当金繰入	269,100	233,550	35,550	
経常費用計	56,651,800	52,475,267	4,176,533	
当期経常増減額	△ 6,778,800	△ 6,496,467	△ 282,333	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 雑収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
① 雑損失	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 6,778,800	△ 6,496,467	△ 282,333	
一般正味財産期首残高	160,934,868	158,163,467	2,771,401	
一般正味財産期末残高	154,156,068	151,667,000	2,489,068	
II 指定正味財産増減の部				
① 受取補助金等				
助成金収入	0	0	0	
受取寄付金	500,000	500,000	0	学会創立100周年事業・次世代支援拡充への寄付
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	500,000	500,000	0	
指定正味財産期首残高	2,389,000	0	2,389,000	
指定正味財産期末残高	2,889,000	500,000	2,389,000	
III 正味財産期末残高	157,045,068	152,167,000	4,878,068	

第3号議案 定款・細則の改定

日本土壤肥料学会定款および細則について、以下の改定を行う。

- (1) 定款第5条、細則第20条および第21条における会員種別名の「国内団体購読会員」を「国内団体会員」とし、その定義を「この法人の目的に賛同して入会した国内の団体で賛助会員を除く」に改める。

提案理由：当学会の会費は不課税であり、課税対象と誤解されないよう、また他学会における会員種別名も参考にして、「購読」の記載を削除する。

- (2) 細則第21条における学生会員の会費年額7,500円を2,000円に改定する。

提案理由：代議員等からの要望および拡大財政基盤整備委員会の提案を踏まえて農学系他学会に比べて低い会費設定とし、学生会員の確保を図る一助とする。なお、会費の収入減に対しては、理事会等各種委員会のオンライン開催による旅費減額分を原資として対応する。

(注) 会費は前納制のため、2025年度分の会費から適用される。

- (3) 細則第23条における会費免除の対象年度に係る記載「当該年度以降の会費の納入」を「次年度分以降の会費の納入」に改定する。

提案理由：当学会の会費は前納制である（定款第7条）。そのため、細則第23条の「当該年度以降の会費の納入」の記載は、当該年度に納入する次年度分会費から、それ以降の納入が免除されることを示している。しかし、当該年度分以降の会費が免除と誤解し易いとの指摘を踏まえ、それを解消する記載に改める。

改定に伴う新旧対照表

規程	条	新（改定後）	旧（現行）
定款	5	<p>(法人の構成員)</p> <p>第5条 この法人は、正会員から選出される代議員（100人以上110人以下）をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、法人法という）の社員とする。</p> <p>2 この法人は、この法人の事業に賛同する個人又は団体であって、次項の規定によりこの法人の代議員となったもの及び代議員以外の会員をもって構成する。</p> <p>(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人</p> <p>(2) 賛助会員 この法人の事業を賛助する団体</p> <p>(3) 学生会員 大学またはこれに準ずる学校に在籍し、この法人の目的に賛同して入会した学生（大学院生を含む）</p> <p>(4) 名誉会員 この法人に特に功労のあった者で理事会の議を経て総会の承認を得た者</p> <p>(5) 国内団体会員 この法人の目的に賛同して入会した国内の団体で賛助会員を除く</p> <p><以下 省略></p>	<p>(法人の構成員)</p> <p>第5条 この法人は、正会員から選出される代議員（100人以上110人以下）をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、法人法という）の社員とする。</p> <p>2 この法人は、この法人の事業に賛同する個人又は団体であって、次項の規定によりこの法人の代議員となったもの及び代議員以外の会員をもって構成する。</p> <p>(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人</p> <p>(2) 賛助会員 この法人の事業を賛助する団体</p> <p>(3) 学生会員 大学またはこれに準ずる学校に在籍し、この法人の目的に賛同して入会した学生（大学院生を含む）</p> <p>(4) 名誉会員 この法人に特に功労のあった者で理事会の議を経て総会の承認を得た者</p> <p>(5) 国内団体購読会員 この法人の発行する学会誌を定期的に購読する国内の団体</p> <p><以下 省略></p>

細則	20	(団体会員の代表者の変更) 第20条 賛助会員又は 国内団体会員 である団体は、その代表者を変更したいときは、遅滞なくその旨を会長に申出なければならない。	(団体会員の代表者の変更) 第20条 賛助会員又は 国内団体購読会員 である団体は、その代表者を変更したいときは、遅滞なくその旨を会長に申出なければならない。
細則	21	第21条 本会の入会金は、3,000円とする。 2 本会の会費は、次のとおりとする。 (1)正会員 年額 12,500円 (2)賛助会費 年1口以上(1口50,000円) (3)学生会員 年額 2,000 円 (4) 国内団体会員 年額 20,000円	第21条 本会の入会金は、3,000円とする。 2 本会の会費は、次のとおりとする。 (1)正会員 年額 12,500円 (2)賛助会費 年1口以上(1口50,000円) (3)学生会員 年額 7,500 円 (4) 国内団体購読会員 年額 20,000円
細則	23	(会費の減免) 第23条 次の各項に該当する正会員または学生会員には会費納入を減免することができる。 (1)正会員または学生会員に水害、震災等の激甚災害、その他の非常事態により経済的損害を被る事態が生じたとき、理事会は該当する会員に対して、その事態が生じた年度以降に納入する会費を減免することができる。 (2)正会員のうち、3月1日現在、年齢満75歳に達した者は、会費免除の申請をすることができる。理事会で確認のうえ、 次年度分 以降の会費の納入を免ずる。	(会費の減免) 第23条 次の各項に該当する正会員または学生会員には会費納入を減免することができる。 (1)正会員または学生会員に水害、震災等の激甚災害、その他の非常事態により経済的損害を被る事態が生じたとき、理事会は該当する会員に対して、その事態が生じた年度以降に納入する会費を減免することができる。 (2)正会員のうち、3月1日現在、年齢満75歳に達した者は、会費免除の申請をすることができる。理事会で確認のうえ、 当該年度 以降の会費の納入を免ずる。

参考

2024 年度役員、代議員等一覧

役員（21 名）

会長	藤原 徹
副会長	信濃卓郎、神山和則
常務理事（常勤）	木村 武
会計担当理事	松浦里江、川東正幸、七夕小百合
会誌担当理事	佐野修司、草佳那子
欧文誌担当理事	西澤智康、大竹憲邦
渉外担当理事	当真 要、神谷岳洋、前田守弘
部門長会議担当理事	森本 晶、小林 優
広報担当理事	大津(大鎌)直子、杉原 創
教育担当理事	藤間 充
監事	深見元弘、伊藤 治

代議員（100 名）

（北海道支部 定員 11 名）

小野寺政行、後藤英次、三枝俊哉、志賀弘行、竹内晴信、谷 昌幸、中辻敏朗、中本 洋、中村卓司、丹羽勝久、渡邊祐志

（東北支部 定員 13 名）

石田宏幸、金田吉弘、木村和彦、佐々木由佳、佐藤 孝、高階史章、高橋 正、高橋智紀、俵谷圭太郎、程 為国、西田瑞彦、牧野知之、松田 晃

（関東支部 定員 40 名）

相崎万裕美、秋山博子、荒尾知人、安西徹郎、石川 覚、伊藤豊彰、伊藤紘子、犬伏和之、江口定夫、大友 量、大山卓爾、加藤直人、加藤雅彦、金子文宜、鎌田 淳、上山紀代美、唐澤敏彦、久保寺秀夫、後藤逸男、小林孝行、坂本一憲、白戸康人、新町文絵、隅田裕明、妹尾啓史、高田裕介、竹本 稔、田中治夫、田野井慶太郎、豊田剛己、中村進一、野口 章、長谷川功、林健太郎、樋口恭子、平井英明、藤井一至、前島勇治、山口紀子、和穎朗太

（中部支部 定員 10 名）

浅川 晋、一家崇志、磯井俊行、小山博之、鮫島玲子、棚橋寿彦、村瀬 潤、森田明雄、渡邊 彰、渡邊健史

（関西支部 定員 17 名）

石岡 巖、岩崎貢三、上野秀人、内山知二、高野順平、田中壮太、中尾 淳、蓮川博之、藤嶽暢英、舟川晋也、馬 建鋒、増永二之、望月秀俊、森塚直樹、山本定博、横山和平、和崎 淳

（九州支部 定員 9 名）

赤木 功、荒川祐介、井上 弦、古賀伸久、佐伯雄一、境 雅夫、樗木直也、平舘俊太郎、宮丸直子

部門長

（第 1 部門）森 也寸志
（第 4 部門）和崎 淳
（第 7 部門）上野秀人

（第 2 部門）山口紀子
（第 5 部門）谷 昌幸
（第 8 部門）程 為国

（第 3 部門）大塚重人
（第 6 部門）西田瑞彦
（第 9 部門）平井英明

支部長

北海道	信濃卓郎	東北	馬場光久	関東	大竹憲邦
中部	村瀬 潤	関西	山本定博	九州	平舘俊太郎

会誌編集委員会

委員長 浅川 晋

常任編集委員 伊藤英臣、高田裕介、櫻井道彦、戸上和樹、澤本卓治、武田 晃、坂井 勝、
勝見尚也、浦口晋平、塩野宏之、中辻敏朗、隅田裕明

地域担当編集委員

北海道	中村卓司、後藤英次、岡田佳菜子	東北	西田瑞彦、瀧 典明、高本 慧
関東	八島未和、平内央紀、諸 人志	中部	福島朋行、堂本晶子、切岩祥和
関西	蓮川博之、鷺尾建紀、石岡 厳	九州	杉田浩一、古賀伸久、平舘俊太郎

欧文誌編集委員会

委員長 矢内純太

副委員長 小山博之、齋藤勝晴、久保寺秀夫、渡部敏裕

編集事務局 齋藤雅典

国内編集委員 吉田修一郎、中村 乾、岩田幸良、森也寸志、早川 敦、飯村康夫、中尾 淳、
村野宏達、原新太郎、多胡香奈子、山崎真嗣、Asiloglu Rasit、大塚重人、渡邊健史、
伊藤英臣、大津(大鎌)直子、水野隆文、和崎 淳、佐々木孝行、西田 翔、
小林奈通子、古川 純、谷 昌幸、前島勇治、高橋智紀、杉原 創、須永義人、
森塚直樹、浅木直美、笛木伸彦、安藤 薫、荒川祐介、高階史章、上野秀人、
永野博彦、森 昭憲、西村誠一、須田碧海、中島 亨、程 為国、藤間 充

海外編集委員 Reiner Wassmann、Xiaoyuan Yan、Jae E. Yang、Zucong Cai、Ping He、
Yong-Guan Zhu、Sanjib Kumar Panda、Miftahudin、Audthasit Wongmaneroj、
Bentio Heru Purwanto、Georg Guggenberger、Sharmim Mia

土壌教育委員会

委員長 森 圭子

副委員長 藤間 充

事務局長 浅野陽樹

顧問 福田 直、平井英明、小崎 隆、隅田裕明

委員 神山和則、丹羽勝久、高本 慧、中塚博子、切岩祥和、角野貴信、赤木 功

事業協力委員 村野宏達、早川 敦、豊田 鮎、浅野真希

2024 年度年次大会（福岡）運営委員会

委員長 平舘俊太郎 副委員長 古賀伸久 事務局長 森 裕樹

副事務局長 佐伯雄一 会計 丸山明子

運営委員 田代幸寛、大城麦人、安彦友美、満田幸恵、藤富慎一、石塚明子、中野恵子、
渡邊修一、淵山律子、荒川祐介、新美 洋、望月賢太、西田 翔、龍田(森山)典子、
古田明子、西山雅也、平山裕介、井上 弦、柿内俊輔、佐伯知勇、加藤貴浩、山本昭洋、
樗木直也、赤木 功、境 雅夫、池永 誠、浅野陽樹、上藪一郎、金城和俊、宮丸直子